

文部科学省高等教育局 島田 志帆  
医学教育課企画官 SHIMADA Shiho

平成16年 健康局疾病対策課(難病・アレルギー対策)  
平成19年 環境省環境保健部環境安全課(環境の健康影響)  
平成20年 大臣官房厚生科学課(長期在外研修)  
平成21年 健康局がん対策推進室(がん対策)  
平成23年 大臣官房国際課(WHO対応)  
平成26年 国立国際医療研究センター企画経営部研究医療課長(研究総括、エボラ出血熱)  
平成27年 千葉県健康福祉部医療整備課(医師・看護師確保、医療体制)  
令和元年 医政局地域医療計画課(新型コロナ、地域医療構想、在宅医療)  
令和2年 現職(大学での保健医療人材の養成)



### 平成16年～ 健康局疾病対策課時代

入省して最初に、アレルギー対策指針の策定を担当しました。多職種の臨床家・患者・行政が連携して知恵を出し合い、上司の指導を得ながらそれを取りまとめたのは、とてもよい経験でした。入省前に勤務していたERで、救急受診を繰り返す小児ぜん息患者を診て、ERでの対処は一時しのぎと感じ、厚労省に入省したら予防の仕組みを作りたいと思っていたので、小児ぜん息の家庭での予防策の普及も含めた指針取りまとめに携わることができ、嬉しかったです。

### 平成20年～ 長期在外研修時代

入省5年目でハーバードに留学し、公衆衛生修士を取得しました。ハーバードは世界のリーダーを育てるという気概で世界中の留学生を受け入れていて、その環境での日々は非常に刺激的でした。公衆衛生の基礎や経済効果分析、人口学、マスコミ対応、リーダーシップ論等幅広く学ぶ機会を得、また世界から日本を見ることができた経験は、大変貴重でした。また、卒業後すぐに学んだことを活かせる立場にあることを幸せに感じました。

### 平成23年～ 大臣官房国際課時代

学生時代、歯科医師の父に同行しネパ

ルでNGO活動を行った経験から、個人に対してではなく集団に対してアプローチする仕組みづくりに興味を持ちました。学生時代から憧れていた国際保健分野を担当する国際課には、留学前後、出産前後とあわせて計3回勤務しました。日本政府を代表してジュネーブのWHO総会に参加したり、WHOが作成する様々なガイドライン案に対して日本の意見を反映させたりするなどの業務を行いました。

### 平成26年～ 国立国際医療研究センター時代

総合診療科に籍を置きながら、病院と研究所のマネジメント業務を担いました。病院経営や研究費・知財の管理等、とても勉強になりました。医療を行う病院において、企画運営の仕事を担当する医療人材のニーズがあることに気づきました。また、海外でのエボラ出血熱の流行を受け、厚労省と医療現場のパイプ役として、疑い患者の病院受入のバックサポートをしました。

### 平成27年～ 千葉県健康福祉部時代

千葉県における医学部新設への対応や、救急・周産期医療の体制整備等を担いながら、課長として、チーム力、交渉力、判断力が問われる管理職業務に携わりました。厚労省や病院とは異なる視点で、地域の保健

医療の課題に取り組みました。また、県庁に出向しながらも、子育てする医系技官をサポートする活動も行いました。

### 令和元年～ 医政局地域医療計画課時代

子育てとの兼ね合いで泊まりの出張に行くことは難しかったのですが、全国を出張して、様々な病院の先生方と活発な意見交換を行い、地域医療の抱える課題に取り組みました。また、令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行を受け、厚労省内に立ち上がった対策本部医療班の班長も担当しました。病院や自治体でのこれまでの経験が活かしたと思います。家族・保育園・職場の協力・支えがあり、2人の子育てをしながら責任ある立場で仕事をすることができました。

#### 医系技官としてのキャリアを振り返って

1～3年おきの異動で大変かと聞かれますが、どの部署でも必要なスキルや目指す方向性は共通するところがあります。また、いざ着任するとそのポストならではの学び・やりがい・出会いがあります。「興味のあることはまず数年一生懸命取り組み。次の分野に移ったときに、知識・経験・人間関係ともに自分の強みとなる」という大学の恩師の言葉どおりです。それぞれの部署での仕事を通じて多くの方々に出会えたことに感謝しています。